

日本触媒の姫路製造所（兵庫県姫路市）の爆発事故の影響が、紙おむつ分野以外の関連産業にも波及しそうだ。工場は自動車向け塗料の原料となるアクリル酸エステルで国内生産の5割前後を担う。生産停止に伴い塗料原料の調達が困難になるのは必至。塗料大手各社は対策の検討に入ったが、生産停止が長引けば自動車の塗装に影響が及ぶ可能性もある。

## 日本触媒の事故、影響拡大

トと日本ペイントはそれぞれ、日本触媒や三菱化学などからアクリル酸エステルを調達し、塗料に加工している。日本触媒の姫路製造所はアクリル酸エステルの汎用品で国内シェア4割、高級車などのトップコートに使う特殊品で6割のシェアを持つ。塗料大手2社は過半を日本触媒から調達している。

# 塗料の調達難必至



## 自動車向けに波及懸念

### 関西ペイントなど対策急ぐ

塗料大手は日本触媒以外の既存の調達先に対し供給拡大を要請し始めたが、調達先の生産能力には限界がある。さらに海外メーカーなど新規調達の先を開拓するには塗料の品質を検査して自動車メーカーの承認を得なければならず「検査に数カ月かかる」（関西ペイント）という。10月分の出荷にメドはついたが、11月以降は不透明（日本ペイント）なのが実情だ。さらに日本触媒の姫路製造所では排ガス浄化に使う自動車触媒や、自動車内装部品などに使われるABS樹脂用の添加剤「N-フェニルマレイミド」なども生産。これらの製品についても供給難の懸念が浮上しており、影響が幅広い業種に及ぶ可能性がある。

塗料供給について現時点では国内自動車メーカーの生産に影響は出ていないもよう。トヨタ自動車は「影響があるか確認中」としている。

日本経済新聞  
 2012年(平成24年)10月4日(木曜日)